

# 小豆島町学校ICTレポート

## 教育改革の40年ギャップ

今回は、イギリスの教育学者であるマイケル・バーバー(Michel Barbar)が論文「Oceans of Innovation」(訳:イノベーションの海)で述べている教育改革について紹介します。

### ○グローバル化と国際競争

グローバル化で色々な国と経済的につながるようになりました。自分の国の産業を育て、他の国との国際競争に勝たなければ、国家の衰退を招きます。ある経済学者は「常に新しいアイデアを生み出し、新しい産業を育てることができる国とできない国に分かれていき、その流れはますます速くなる」と述べています。優れたアイデアはどこからでてくるか事前にはわからないので、国民全員の才能を引き出すことが国家の重要課題となりました。

### ○なぜ教育改革が必要なのか？

このため初等・中等教育を改革して全体の底上げが必要となります。「子どもたちが良い仕事に就くだけでは不十分で、良い仕事を生み出すことができる素地をつくる」。これを実現するための教育に必要な要素は、KTLの3つだとバーバーは述べています。

- **知識(Knowledge)**。「何を知っているか」だけでなく「どのように知ることができるか(検索)」も含む。
- **思考力(Thinking)**。
- **周囲(教室や社会)に良い影響を与えることができるリーダーシップ(Leadership)**。

またバーバーは、これらの能力は生まれつきではなく、後からの学習で身につけることができると主張しています。

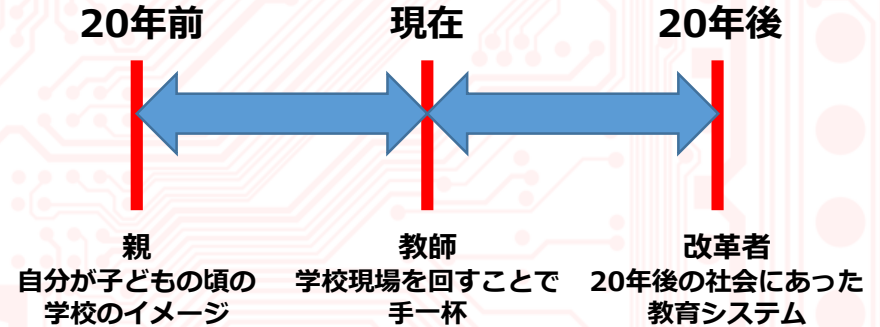


図. 教育改革の40年ギャップ

### ○なぜ教育改革は進まないのか？

教育改革者たちが20年後の社会に合わせて教育システムを変えようとしていますが、教師は学校現場を回すことで手一杯であり、子どもの親は自分が子ども時代に受けた学校システムで充分と認識しています。改革者たちは、教師や親への説得を軽視しているとバーバーは述べています(教育改革の40年ギャップ)。バーバーはまた日本を含むアジアが初等教育にある程度成功していることも改革の阻害となっているとも述べています。皆さんはどのように考えられますか？

小豆島町は1人1台の学習者用タブレットの整備を行い、ひとりひとりにあった学習の実現を目指して、町内の小中学校で活用を進めております。引き続き、皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

## 小豆島町の目標

全児童生徒が1日1時間はiPadを使った授業を受ける